

合宿レポート！

社会歴史研究同好会夏期合宿第一回 東日本大震災被災地 視察研修

2012年8月16日から17日。

我々社会歴史研究同好会の中学二年生以上の部員は夏期合宿の行き先として、東日本大震災の被災地へ行きました。

今回の合宿の行き先としては主に岩手県の三陸沿岸。

ここに文章で現地の様子を書くよりも、合宿の様子を含めて写真で載せた方が分かりやすいということは明らかなので、合宿レポートも兼ねて東日本大震災から1年と5カ月経った被災地の様子を載せていきます。

※一部写真はバス内からとったため、バスの一部、ガラスの反射やガラスの色が映りこんでいたり、ブレていたりします。

※原則撮影時間順に並んでいますので写真が前後することもあります。

8月16日 東京駅～浄土ヶ浜



08:19 東京駅ホーム

ちょうど、乗車するこまち号を待っていたとき。



10:48 こまち号車内

盛岡駅に着く少し前。寝る人もいればゲームをする人もいれば、何もしない人も。



12:55 バス

御世話になった三陸鉄道のバス。



13:51 宮古市市役所前
震災当日ここも津波が押し寄せた。

【参考】昨年展示したDVD映像より
真ん中の標識が左の写真の左にある標識と同じ。

13:57 宮古市内
住宅の基礎部分しか残っていない。

8月16日 浄土ヶ浜



14:01 浄土ヶ浜
海水浴客でいっぱいの浄土ヶ浜に到着。

14:06 1960年のチリ津波記念碑
「地震がなくとも潮汐が異常に退いたら津波が来るから早く高い所に避難せよ」と書いてあった。

14:06 浄土ヶ浜
まさに海水浴日和。一番初めに海に手を入れたのが顧問だったことはここだけの話。

8月16日 田老地区



14:46 防潮堤
この上を歩きました。これほどの高さもあるのに津波はこれを超えてきた。

14:47 田老地区
今は緑がいっぱいですが、昔は家がぎっしり建っていたようだ。

14:51 防潮堤の上
上は草が生えていたり、壊れた電灯があったりするくらいだった。



14:54 防潮堤の壊れた電灯
ひどい物では根こそぎ折れていた。

14:56 津波で壊れた防潮堤
この部分が一番新しいそうだが今回の津波でこのように。

15:02 防潮堤の壊れた電灯
これだけを見ても津波の威力がよくわかる。

		
<p>15:16 以前の津波の高さ かがんでしまっているが、部員と比べれば高さが分かるはず。</p>	<p>15:17 左を拡大(矢印部分) 上は明治29年の15m、下は昭和8年の10m。</p>	<p>15:18 トイレ ご覧の通りめちゃくちゃに壊れ、今は蜘蛛が住んでいた。</p>
		
<p>15:20 港 部員が乗ってしまっているが、ここも壊れていた。</p>	<p>15:24 トイレ脇の壁面 手前の部分は元の角度よりさらに傾いていた。</p>	<p>15:24 トイレ 上のトイレを別の角度から。屋根はなくなっていた。</p>
		
<p>15:46 移動途中 街の至る所にこのような表示があった。</p>	<p>15:46 仮設住宅 グリーンピアという敷地内にあった仮設住宅。</p>	<p>15:58 たるちゃんハウスC棟 この中には店舗が入っていた。このあととなりのB棟内で地元の消防団の方のお話を伺いました。</p>
		
<p>17:06 仮設住宅内 中は暑く団扇は必須だった。因みにこの団扇は部長が作ったもの。</p>	<p>17:22 移動中 「津波浸水区域想定 ここまで」と日本語と英語で書かれたものがあちこちにあった。</p>	<p>17:38 移動中 数少ない津波の遺構の一つ。何かのお店だったのでしょか。</p>

		
<p>17:41 ホテル到着 今回は宮古ホテル沢田屋というところに一泊させていただいた。</p>	<p>21:25 団扇 前のページの一番下の左の写真に出てきた当同好会オリジナルの団扇。</p>	<p>22:17 ホテル廊下 建前は10時に寝ましたが、ある部屋からは賑やかな声が聞こえてきた。(大富豪をやっていたとか)</p>
<p>8月17日 山田町</p>		
		
<p>08:14 移動中 一路南へ向かった。</p>	<p>08:21 移動中 山田線の線路。もう草茫々。</p>	<p>08:34 移動中 津波の跡が3階にあった。電柱か何かが引っ掛かっているのが見える。</p>
		
<p>08:43 移動中 岩手船越駅。こちら草茫々。</p>	<p>08:44 瓦礫の山 高く積みあがっていた。</p>	<p>08:45 瓦礫の山 こちらの瓦礫の山は草茫々。</p>
		
<p>08:50 瓦礫置き場 一旦バスを降りて瓦礫置き場を視察。</p>	<p>08:51 瓦礫置き場 こちらは車。右に居る部員と比べれば高さは一目瞭然。</p>	<p>08:51 瓦礫置き場 左の写真と同じ山。潮につかりすっかり錆びて無残な姿に。</p>

		
<p>08:53 瓦礫置き場 もともとは道路の上に掲げていた標識だろうか。</p>	<p>08:53 瓦礫置き場 左の写真の標識を拡大。他の物が当たったのかボコボコに。</p>	<p>08:54 瓦礫置き場 全景。瓦礫は隅に置いてあったためすっきりとして見えた。</p>
<p>8月17日 大槌町</p>		
		
<p>09:31 大槌町役場外観 移動して大槌町役場に到着。</p>	<p>09:33 大槌町役場外観 正面から。無残に崩れていた。</p>	<p>09:33 大槌町役場外観 津波は15:15頃到達したらしいですが、時計はずれていた。</p>
		
<p>09:33 大槌町役場内部 外から撮影。まだ無数のがれきが残っていた。</p>	<p>09:35 大槌町役場内部 こちらでは草が生えはじめていた。天井は骨組がおき出しに。</p>	<p>09:36 大槌町役場外観 この消防防災課長さんは助かったのだろうか。</p>
		
<p>09:38 大槌町役場外観 今では向日葵と蜂の姿しか見えません。</p>	<p>09:42 大槌町役場外観 二階も悲惨な姿と化していた。</p>	<p>09:54 城山公園から望む 先ほどの町役場も見えている。</p>

		
<p>11:37 釜石鵜住居でのお昼 こちらでも御馳走様でした。</p>	<p>14:09 新花巻駅到着 予定より一時間以上速く到着。</p>	<p>15:29 帰りのやまびこ 予定通りの列車に乗車、帰宅。</p>

【編集後記】

テレビや新聞などの報道では見られない面を見られたという面では貴重な合宿になりましたが、見るに堪えない姿も見られました。今回の合宿を通して、“人間側の復興（例えば、仮設住宅の建設など、必要最低限の生活が送れる状態）”は進んでいたように見えてましたが、それ以外の復興（例えば、瓦礫の処理、交通網の復旧など）は進んでいるようには見えませんでした。けれど、これから徐々にこれらの部分も復興していくのでありましょう。

若い世代、特に中学・高校生ともなると、（言い訳ではないが）社会的にはまだできる“役割”というものが少ないですが、このように現地を見たり、聞いたりして、“記録”という作業はできます。実際、部員のほとんどが写真を撮り、部長はビデオを回すという“記録”という作業をしていました。先の大戦のように“戦争”を経験している世代が少なくなっているのと同様に、この“震災”という日本に多大な被害を及ぼした事態を“直接経験”した世代が少なくなるかもしれません。そういう時に当時の若い世代の“記録”としてなにか未来にできるかもしれません。我々は東北から遠く離れた首都圏で震災を経験しましたが、“経験した”という点では変わりません。

今後も社会歴史研究同好会は被災地に寄り添っていくことになるでしょう。その時にでもこれらの写真やここに載せていない写真とも比べて1年でこれだけ復興したということを実感してもらいたいです。

2012年8月18日

関係はないですけれども、タイトルと編集後記の背景の空の写真ですが、これも現地（大槌町町役場前）で撮った写真の一枚です。首都圏でも被災地でも同じ“青い空”。場所は違ってもみている空は変わらないのだな… と実感。